

# 市民の文化拠点の博物館とは？

吉田 貞子

〔質疑〕博物館建設構想委員会の答申を受けて、市の見解を問う。

市は、一度見たら十分な施設としようとしているのか。市民の参加・体験を中心に市民のための博物館とするのか。市民の文化創造の拠点としての博物館の内容とは？

答申に対する教育委員会の見解は？

学芸員を含む充分な人的配置で市民が要求する博物館を模索しながら進めるべきでは？  
国・県などの財政的支援の可能性は？

〔答弁〕三位一体構造改革がまだ正直不透明で、財政シミュレーションを行いつながら中長期的な展望に当たって、総合的に検討していきたい。七月七日付であるけれども、教育委員会として市長の方に、「白石の歴史と文化をよく理解して、今後の歩みを確かなものにするために、市民参加型の博物館の建設が急務である」というような内容で申し入れをしている。

答申を受けている現時点で

あつて建設時期は検討中であり、つくるのであれば、生涯学習の拠点であることは確かである。白石というのは歴史、文化が薫るまちである。だから、「城下町の面影の博物館」という先生方の答申だと私は理解している。

# 国保制度の今後の方向について

水落 孝子

〔質疑〕国民健康保険制度は経済状況の悪化と共に、国保税の納入状況も悪化し、短期保険証・資格証の発行が実施されている。

地方においては、経済がすぐ好転するメドもまだたたない中で、このままでは、国民皆保険制度からはじき出され

る市民が出てきて、国保制度の形骸化にもつながると危惧している。

そこで、低所得者にやさしい課税のしかた・実態に即した減免制度の創設などで、国保税納付率をあげる事を考えるべきではないか。

〔答弁〕国民健康保険税の所得割を歳出する場合、旧ただし書き方式、本文方式、所得割方式の三方式が定められており、この旧ただし書きを採用している。

現行法上、低所得者に最も有利な方法が旧ただし書き方式ではないかと思つているので、このまま法律が変わらなければ維持していくべきではないかと思つている。

収納率の向上対策については、税務課の方で考えているのは、所得のない方であつて

もまず申告をしてもらおう。申告することによって軽減が受けられる状況になる。

また、短期証なり資格証なりで、まず話し合いのテーブルに着いてもらうということが大事かと思つており、話し合いをもつてすれば、収納率のアップにもつながるのではないかと思つている。



博物館フォーラム（博物館建設促進市民の会）